

# 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

2024年度

## 研究開発実施報告書

SIP 課題名 「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する  
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名

「主体性を醸成する生涯学習プラットフォーム構築と  
「知」の総合化」

研究開発期間： 2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

|         |      |                   |
|---------|------|-------------------|
| 研究開発責任者 | 氏名   | 大島 俊一郎            |
|         | 所属機関 | 国立大学法人高知大学        |
|         | 部署   | 教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門 |
|         | 役職   | 教授                |

## 研究開発成果等の概要

我々は、「主体性・創造性を醸成する生涯学習プラットフォームの構築」を目指し、「サマセミ型学びの場」を大学、自治体、企業に導入ならびに継続的に実施した。東北大学では、「誰でもセンセイ、誰でもセイト」をコンセプトとした「みんなのセミナー」として、2024年度は、「春セミ」(4月)、「夏セミ」(8月)、「冬セミ」(3月)を開催した。「春セミ」は東北大学における初年次必修科目(全学部の学部1年生2,500名超が履修、うち対面参加での「春セミ」参加者は約1,000名)の中で実施した。「夏セミ」・「冬セミ」は当初より課外での活動として実施していた。また、12月には宮城県名取市の増田公民館を会場に「みんなのセミナーin名取」を開催した。名取市役所と尚絅学院大学(名取市にある私立大学)との協働のもと、尚絅学院大学の有志学生4名とSCCによる実行委員会を結成し企画運営をおこなった。また、高知大学でも「サマセミ型学びの場」を実施し、計12コマの授業が行われた。その結果、学生だけでなく、教職員、一般(地域)の方々の参加もあり、「サマセミ型学びの場」で出会った様々な人たちと繋がることで多様な繋がりが生成され、他のイベントにおいても「学びの楽しさ」を他者に提供出来たなどの、主体性の醸成が確認された。2023年度より検討を行ってきた、千葉大学国際教養学部を中核とした学びのプラットフォーム、「ななめ大学」の活動を本格的にスタートさせた。具体的には、アーティストをゲストに招いた学習プログラム、外国につながる子どもの支援を行っている教員やNPOと連携しての、それぞれの視点を共有する活動、小学生を招いて行うワークショップイベントのほか、後述するサマセミ型の実践やトークイベントなど、多様な活動を展開した。

次に「地域でのサマセミ型学びの場」では高知大学が中心となり、継続的に室戸市で「サマーセミナー」を開催した。その結果、関係者/イベント参加者の範囲において主体性の向上が観察された。さらに、これまで出会う機会のなかった人々のネットワーキングが実現し、コミュニティが拡張し始めている。この現象は室戸市だけに留まらず、いの町でもサマーセミナーを開催し、室戸市同様の主体性の醸成が確認された。また、高知県の山間部に位置する大豊町でのサマーセミナー開催を目指し、サマーセミナー実行委員会を発足した。

「企業内・企業間でのサマセミ型学びの場」では、「サマセミ型学びの場」の開催に向けて複数の企業人が集まり、議論を開始した。2025年度の開催を目指す。また、企業人を対象とした学び方・働き方を繋ぐ生涯学習プラットフォーム構築に向けた研究会を数回開催し、議論を重ねた。

我々は、「サマセミ型学びの場」の構築を目指し、D&Iの観点からオンラインイベントを継続的に実施した。まず、「哲学カフェ」においては、高知大学と東北大学が共同して定期開催した。両大学の学生に加えて、社会人(企業)も参加し、学生と社会人の共創的な対話の場となった。また、高知大学では「オンライン公民館」を2024年度は計5回実施し、9名のセンセイが様々な趣味・興味のあることについて授業をした。その結果、オンラインを通じて様々な属性やバックグラウンドを持つ人同士が対話することで、新たな気づきが生まれ、それぞれの参加者にとって刺激的な学びの場となった。この出会いから、「自分もセンセイのようにもっと挑戦してみたい」や「より「今の自分」を意識して行動してみたい」といった参加者からの声もあり、主体性の醸成が確認できるような意見が数多くあった。さらに、D&Iの観点から「食育：出前養殖プロジェクト」を継続的に実施した。これは、「サマセミ型学びの場」の一環として、幼稚

園、小学校、高校、大学ならびに民間企業が協働して主体性を醸成する学びの機会を提供するものである。今年度は、高知県内の幼稚園（年長・年中クラス対象）と東京都内の特別支援学校の高校3年生を対象に開催した。その結果、生徒が普段食べている魚を飼育することで、「命」の重要性や「食」へのありがたみを実感してもらうことができた。また、魚の飼育を通じて、不登校の学生が魚の飼育のために登校するような行動変容が確認された。さらに、授業に取り組む態度が変化し、落ち着いた気持ちで授業を受講する姿が確認された。生き物を飼育する体験を通じて、学生の思考・行動の変容が確認された。

次に、「「知」の総合化に向けた学習カリキュラムと学習コンテンツの開発」を目指し、『主体性・創造性のための学習コンテンツ/学習カリキュラムを開発』を行った。教材開発として、主に初年次学生を対象とした学習ガイドブック『ともそだち本』を制作した。この冊子は、2025年度、全1年生に配布され、1年生の必修科目『学問論』の中でも、参考資料として活用いただく見込みである。また、高知大学を中心に、「養殖コンソーシアム」を計8社の企業と連携して立ち上げた。このコンソーシアムでは、産業チェーンを意識して、生産、流通、販売、医療、化学、ITならびにエネルギー関係の事業を行っている企業が参画している。ここでは、生活者として参画していただくことを重要視しており、経済原理だけで繋がりがちな現状の課題（効率化による思考、行動の画一化）に対して、この関係性を人と人の関係性に繋ぎ変え、思考、行動の変容を図ることで、イノベティブな発想を生み出し、かつ生まれた発想を参画者で協働し、迅速に社会実装に繋がるものやことにつくり上げる仕組みを立ち上げた。2024年度は、新たに2社の企業が加わり、具体的な実証試験を始めた。千葉大学を拠点としたサマセミ型の実践は、2023年度より、高知大学や東北大学でのイベントに視察・参加しながら学生とともに検討を進めてきた。その成果として、2024年12月に、学生たちが主体となり、「国際教養学部 Winter Festival」を企画・開催した。また千葉大学では、大学生をファシリテーターとした小学生対象のワークショップ「ななめ大学 for kids」、同じく大学生がファシリテーターとなり、移民・難民の子どもたちを対象とした「Naname Multicultural School」、そして、大学生に向けた連続プログラムである「ななめ大学ワークショップ」を開発・実施した。現在、それぞれのプログラムの教育的効果について、知的好奇心や創造性に対する認識の変化、触発といった観点から、分析・検証を行っている。